

☆ The hottest summer is gone and autumn began with disasters, but we've got good news!



Osaka beats Williams to win US

Open—Japanese tennis player Naomi Osaka has won the women's singles title at the US Open. She defeated Serena Williams of the United States. She is the first Japanese singles player to win a Grand Slam tournament（4 大大会で初優勝）. (NHK World Japan)

☆ 夏休み中、LAC・一般クラスの多くの方が国際交流を体験しました。その報告を紹介します！

TOPIC 1 7/28～8/9 Mount Gambier High School 短期留学に 10 名(LAC6 名)が参加

（感想 1）特に印象深かったことは、現地の学校で授業を受けたことです。理科の授業を受けて、遺伝子や DNA についての授業で、話しているのは英語だったけれど理解することができ、発表することもできてとても楽しかったです。また、ホームステイの子がとてもフレンドリーなため、友達が多く、自然と私にも友達ができ、インスタグラムやスナップチャップを交換し、日本でも連絡を取り合うことができ嬉しかったです。

（感想 2）オーストラリアは多民族国家で、学校にも様々な人種の生徒がいましたが、人種が違うからと言って特別扱いしたり、見下したりなどは一切なく、全員の違いや個性を完全に受け入れていました。私たち日本人生徒にも、普段通りのテンションで話しかけてくれたので、私も緊張せずにコミュニケーションをとることができました。学校では、年齢や学年など関係なく生徒同士の仲が良いところが良いなと思いました。美術やダンスの授業など学年を問わずに選択して受けられる授業があり、そこで繋がりが広がっているのかなと思いました。



TOPIC 2 8 月 3 日宝塚市国際交流協会主催 Oxbridge 留学生との英語交流ボランティア

（感想）今回短時間のボランティア活動でしたが、とても良い体験をすることができ参加できたことを嬉しく思います。このボランティアでの主な役割は通訳でした。留学生がゲームの説明を英語で行い、それを西高生が日本語に訳します。訳す相手は小学 3 年生から 6 年生の子どもたちです。まずは何をすべきか、何から言えば分かりやすいかなど、みんなに理解してもらうために伝え方に注意しました。私は LAC でロジカルのクラスを取っています。ロジカルは、コミュニケーションを行う際に必要な論理的な文章を書く方法を身につけるための授業です。私はここ

で習ったことが今回のボランティアで活かすことができたと思いました。LACの1年生では、小学校を訪問し、英語でゲームなどの授業を行うことがあります。私がそこで大切だと気付いたことは、子どもたちに楽しんでもらうためには自分たちも楽しむという事です。今回のイベントも“みんなで”ということを常に意識しました。また、言語が違うことが留学生と小学生との距離をつくっているように初めは感じました。しかし、ゲームを通してその距離も縮まり、明らかに初めと終わりでは違う雰囲気を感じました。言語の違いは大きな壁とされます。今回それは問題ではないと思いました。私たちは気持ちでつながることができたのではないかと思います。



TOPIC 3 7月26～27日関西学院大学主催高校生国際交流の集いにLAC10名が参加

(感想1) グループに分かれ、SDGs (持続可能な開発目標)についてディスカッションをしました。私のチームはゴール13の”Climate Change”(気候変動)について話し合いました。ディスカッションはもちろん全て英語で、留学生の英語のスピードについていたり、スペインなまりの英語を理解したりするのが大変でした。しかし少しずつ慣れてくると、私は、黒板にみんなの意見を書き、自分の意見を伝え、チームの意見をひとつに全員が納得できるようにまとめていくリーダーのような立場になっていました。リーダーのように前に出るなんて思ってもいなかったもので、どんな時でも臨機応変に対応できる力や英語力や知識を身につけておくことはとても大切だと実感しました。休憩時間は全員でスタバに行ったり、それぞれの国について話したり、みんなで遊んだりするほど仲の良いチームになりました。2日目の最後のプレゼンテーションに向けて全員で協力し、より良いものを作るように意見を出し合い、ギリギリまで改善していきました。何度も何度も繰り返し練習して最高のプレゼンを作り上げることができました。それを他のチームやKGIHリーダー、先生方にも届けることができ、1位を獲得しました。グループみんなで喜びました。グループを代表して前で表彰状を受け取りました。頑張った分、とても嬉しかったです。このグループで本当に良かったです。他にもたくさん仲良くなった留学生もいるのでまた会いたいです。そして将来や夢のために英語はもちろん、他の勉強も頑張りたいです。

(感想2) 私は去年のディスカッションで自分を出し切れなかったのが、今年は頑張ろうと思っていたのですが、周りのみんなの英語力に圧倒されて相槌を打つくらいしかできませんでした。ほとんど参加できなかったのが、とても悔しかったです。しかし私は、このことから学びました。それは、自分に自信を持ち、積極的になることです。これが私にはとても必要なだと痛感しました。このことから、英語を勉強して自分から前に出られるようになるという目標を持つことができました。



TOPIC 4 Four students joined “Global Leaders’ Camp 2018” in Yashiro (7/28～7/30)

兵庫県の英語キャンプ（目標は ”Critical thinking”, “Presentation” & “Leadership”）に4名が参加。

（感想）ひょうごグローバルリーダー育成キャンプは今まで一番脳をフル回転させたキャンプでした。とにかくずっと英語です。聞くのも英語で、話す言葉も英語です。5人1組でプレゼンテーションの班を組み、2人のALTの先生が付きます。私の班の先生はとにかく話すスピードが速いので、瞬時に英語が日本語へと変換する必要があり大変でした。

1日目はディベートの繰り返しでした。「無人島に行くときに選ぶ4つのアイテム」→「無人島で生き残る方法」→「無人島で暮らすか、脱出するか」この無人島シリーズは約3時間かけて討論をしました。自分たちが計画した無人島でのアイデアを他の班がチェックしたりしました。この無人島でのディベートを通して私たちは ”Critical Thinking” を気づかない間に体験していたのです。“Critical Thinking” とは何ですか？と聞かれるとうまく日本語でも言えない難しいキーワードです。ですが、何か物事を考える時に、この “Critical Thinking” はとても大切です。次に、本題のプレゼンテーションの内容を決めました。子どもの権利、町、環境、動物などの様々な問題の中から、私たちの班は、教育と幸せのどちらにするかで悩みました。教育派の意見は、「どうすれば世界中の人に教育を受けてもらえるのか？」で、幸福派の意見は「幸せな国の福祉」について調べたいという意見で、結局、幸せの中に教育を取り入れるという結論になり、私たちの班は「どうすれば日本人はより幸せになれるのか？」を目標に1日目のディベートを終えました。

2日目はプレゼンに必要な基本を、15分×5回ALTのプレゼンを聞くことで学びました。その後、各自で役割を決め、調べ学習に入り、意見交換をしながらプレゼン作りに入りました。今回のキャンプは、アンケートを2学期に学校の人たちに取ります。実際のアンケートを使ったプレゼンテーションは初めてなので、春のキャンプがとても楽しみです。

3日目に5つの班にプレゼンを1対1で行いました。人数が少なかったため、いつもより周りを見てプレゼンできたことがとても嬉しかったです。

TOPIC 5 第1回LAC特別講座（7月13日3,4限LAC1,2学年対象）

今年度、第1回LAC特別講座では、関西学院大学 国際教育・協力センター 中村明教授に「持続可能な開発目標（SDGs）」（2015年国連の持続可能な開発サミットで採択されたテーマで2030年までのグローバル目標）についてご講義いただき、自分が関心のある時事問題について考え、800字のレポートを作成しました。その一部を抜粋して紹介します。

（2年生）「脆弱性」という言葉を初めて知った。例えば、同じ震度の地震が世界中の国々で起こ

るとして、大きさは同じでも災害の大きさは国により異なる。頑丈な建物の多い日本は比較的被害が少ないが、一方アフリカやアジアの国々では大きな被害が出る。またその被害によって国民へのダメージも大きくなる。この原因は、自然災害への対策がないことや、病院などで働く人の少なさなどだろう。誰かが手を差し伸べ改善しようとしめない限り、悪循環は終わらない。長い時間をかけて根本的に変えていく必要がある。例えば、バングラデシュは自然災害発生頻度もリスクも高い国である。バングラデシュに必要なのは、災害に耐える公共建築物だが、安全な建物を作ることができる人材も必要になる。指導者が不可欠である。発展途上国は先進国の力を借りなければ、現状を変えられないと思う。先進国である日本は、高い技術を持った人が多く、機械も多い。豊かな日本だが、途上国の助けがなければ我々の生活に支障をきたすことはまちがいない。豊かである国だからこそ、他国の状態に目を向けお互い助け合っていかなければならない。

(1年生) 今回の講義を聞いて、世界には自分が思っていた以上に深刻な問題が数多くあることを知りました。そしてそれらは別々の問題ではなく、複雑にからまり合っただけで一つの大きな問題となっているのです。発展途上国の大きな問題の一つが飢餓です。世界の人口増加が予測される中で、さらに飢餓で苦しむ人が増えてしまいます。貧困のためにきれいな水を飲むことさえもできず死亡してしまう人が多くいるのです。飢餓で苦しむ人がいる国と食料を多く廃棄している国が同時に同じ世界で存在していることをとても疑問に思います。さらに、感染症も飢餓と並び大きな問題の一つです。低所得国の主な死因が感染症であると知り、衝撃を受けました。貧困であるために十分治療を受けることができず死に至る人がたくさんいるのです。これらの問題の共通点は人間として最低限度の生活を送れていない人がいることです。「今」苦しんでいる人がいるので、最も早く解決すべきだと思います。

(1年生) 私は、最初に見た女性と子どもの写真が一番印象的でした。現在でも、発展途上国の国々では、まだ女性や子どもの立場があまりよくないことを実感しました。特に、ネパール地震の際の建物が崩壊した写真です。日本で震度4～5の地震が起きたとしてもこれほどの被害が出ることはないと思います。亡くなった人の55%が女性で、女性が逃げにくい環境であることがわかりました。私は、ミレニアム開発目標という言葉が講義で初めて聞きました。第1目標の「1日1.25ドル未満で生活する人の割合を半減させる」とありますが、1.25ドルというのは本当に最低限で、日本ではおにぎり1つを買うことしかできない。もし半減させられたら、もっと値を上げて貧困状況の改善に世界が協力して働きかけるべきです。発展途上国の支援では、まずきれいな水を通すことが必要です。2015年の死亡原因では、高所得者と低所得者の原因が大きく異なり、下水道感染症が1位、下痢性疾患が2位なので、水道を通すだけでも大きく変わることができると思います。また、第5目標の「ジェンダー平等を実現する」について調べてみると、最近エマ・ワトソンさんがスピーチをしたことができました。「型にはめられず自由になろう」と言っておられました。確かにこの考え方をすべての人が持つことができれば、発展途上国での問題にもつながっていくと思います。



12月17日(月) 3・4時間
目に第2回 LAC 講座があります。1回目の継続で実践的な内容を予定。"Sustainable Development Goals" を意識して、身近な問題を掘り下げてみてください。